

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：12102  
研究種目：基盤研究(B) (一般)  
研究期間：2014～2016  
課題番号：26285130  
研究課題名(和文) 全国コホートによる虐待等不適切な養育環境への根拠に基づく早期支援プログラム開発

研究課題名(英文) Developing early intervention programs on child care environment to prevent child abuse using cohort study over Japan

研究代表者  
安梅 勅江 (ANME, Tokie)  
筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：20201907  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：虐待件数の増加にともない、予防支援は喫緊の課題である。本研究は、根拠に基づき乳幼児期の子育て支援機関における科学的な根拠に基づく「不適切な養育環境の早期支援プログラム」を開発し、実用化を目的とした。園児と保護者に対する質問紙調査と面接調査を実施し、コホートを用い、子どものウェルビーイングを目的変数に、不適切な養育環境など家庭環境要因、発達障害など子どもの特徴要因、保護者のストレスなど保護者特徴要因、社会サポート要因などを説明変数に、複合的な関連について多変量分析を用いて検証した。それらの成果に基づき、子育て支援と環境支援を連動した「不適切な養育環境への早期支援プログラム」を開発した。

研究成果の概要(英文)：As increasing numbers of child abuse, the need for programs to prevent child abuse continues to grow. The purpose of this study is to develop early intervention programs on child care environment for child abuse prevention using cohort study over Japan. To make this program from a longitudinal perspective, data were collected from Japanese children, their guardians, and the government-authorized childcare professionals responsible for overseeing them. Guardians completed a survey containing items regarding socioeconomic status, family composition, and home environment. The childcare professionals supplied details pertaining to the children's preschool-age development. A multiple regression analysis revealed that rich child care environment at the preschool age related their well-being upon reaching the school age. If quality childcare was combined with an appropriate home environment, it strongly promoted a prevention of child abuse.

研究分野：発達保健学

キーワード：虐待予防 育児環境 コホート

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 児童虐待件数は 2012 年度 6 万 7 千件近くにおよび、前年度比 11.5% 増と増加の一途をたどっている。不適切な養育環境への早期支援は、保育園、幼稚園、認定こども園など乳幼児期の子育て支援機関において強く求められている。

(2) しかし日本においては、これまでに全国の園児を対象とした経年的な大規模データを用いて、就学後の子どもの育ちまで追跡した科学的な根拠に基づき「不適切な養育環境への早期支援プログラム」を提案した研究はまったく存在しない。ここでの「不適切な養育環境」とは、特に支援の必要性の高い虐待などを含む、何らかの配慮を要する養育環境と定義付ける。

(3) 欧米先進国においては、英国の 55 年追跡コホート研究をはじめ、国レベルで出生から 15 年以上におよぶ大規模コホートプロジェクトを立ち上げ、これらの課題に取り組んでいる。

(4) 我々は過去 15 年にわたり、子育て支援や家庭環境が、子どもの発達や社会適応、健康状態に及ぼす影響を追跡研究してきた。その結果、質の高い子育て支援を確保すれば、家庭における適切な子どもへのかかわりや、保護者の育児への自信、保護者へのサポートが、子どもの経年的な発達状態、健康状態、問題行動などに影響していることを明らかにした。なお本研究における子どもの発達、適応状態、健康状態への影響の経年的な評価法や統計的な分析法に関しては、欧米先進国と同様の方法を用い、国際的に比較可能なデザインを採用している。

(5) さらにこれら科学的な根拠に基づき、「家庭環境の評価指標」「気になる子どものスクリーニング指標」「園児の発達評価指標」「保育の質の評価指標」を開発し、子どもの健やかな発達と保育の質の関連性を検討し、証拠に基づく評価基準を作成し、活用のための研修会を開催してきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、根拠に基づき乳幼児期の子育て支援機関における科学的な根拠に基づく「不適切な養育環境の早期支援プログラム」を開発し、実用化を図るものである。特に、虐待、貧困、保護者の精神疾患、複雑な家族構成などさまざまな要因により引き起こされる不適切な養育環境の特性別に、発達の軌跡と支援方法の妥当性に関する学術的な知見を得ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

支援プログラム効果検証のための在園児 3,000 名に対する質問紙調査と訪問面接調査を実施する。

乳幼児期から思春期に及ぶ長期大規模コホートデータを用い、子どものウエルビーイングを目的変数に、不適切な養育環境など家

庭環境要因、発達障害など子どもの特徴要因、保護者のストレスなど保護者特徴要因、社会サポート要因などを説明変数に、複合的な関連について多変量軌跡分析を用いて検証する。

それらの成果に基づき、科学的な根拠に基づく「不適切な養育環境への早期支援プログラム」の開発を行う。

## 4. 研究成果

(1) 保護者と子育て支援専門職への不適切な養育環境への支援に関するニーズと内容把握

不適切な養育環境への支援プログラムのニーズと内容を抽出するため、保護者および子育て支援専門職に対するフォーカス・グループインタビューを実施した。子どもと保護者に対する対応の仕方、必要な保育環境、サポートの現状などを討論の柱として、具体的な内容を詳細に、できるだけ数多く収集した。1 グループあたり原則として約 2 時間の時間をとり、子育て支援に長年取り組んできた実践家の豊富な体験や保護者の生の声を、フォーカス・グループインタビュー法の分析技術を活用しながら整理した。実施にあたっては、ビデオ 3 台で録画し、逐語記録と観察記録を合わせてデータ化した。

(2) 「不適切な養育環境」経年推移と子どもの育ちへの関連要因に関するデータ分析

追跡調査対象は、全国の 0 歳～6 歳児と保護者、毎年 3,000 組ずつ平成 11～25 年の 15 年間パネルコホート研究を継続した約 45,000 組である。調査内容は、身体的精神的ウエルビーイング状態、家庭環境、社会サポート状況、健康状態、社会適応、家族と子どもの属性などである。養育環境、サポート環境、子どもの経年的な発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の推移を勘案しながら、ウエルビーイングを目的変数に、乳幼児期の関連要因を説明変数として多変量軌跡分析により複合的な影響度の強さを明らかにした。

(3) 「不適切な養育環境への早期支援プログラム」開発

1) 海外コホート研究の根拠に基づく支援プログラムの開発過程、内容、評価に関する系統的レビュー、2) 大規模コホートデータの分析結果、3) 保護者と子育て支援専門職のフォーカス・グループインタビューにより得られた情報、4) 開発済みの「養育環境評価指標」を活用し、統計的妥当性及び臨床的重要性を加味しながら、有効な項目を抽出して体系化し、「不適切な養育環境への早期支援プログラム」を作成した。

(4) 「不適切な養育環境への早期支援プログラム」実施とプロセス評価

保護者に対する調査（家庭環境と支援ニー

ズに関する実態把握)、医療・福祉・教育専門職による子どもへの面接・観察調査(子どもの心身の健康と課題に関する専門的な評価)を実施した。

専門職による子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の評価、保護者に対する質問紙調査、専門調査員による家庭環境評価、面接調査、環境評価を行い、評価の妥当性を検証しつつ不適切な養育環境の特性別パネルコホートをを用いた支援プログラムのプロセス評価を行った。

#### (5)「不適切な養育環境への早期支援プログラム」の「保育の質の評価指標」への反映

我々がすでに開発している「保育の質の評価指標」の枠組みである「子ども」「家族」「保育環境」「連携」の4領域について、家庭、子育て支援機関、地域との連携により「不適切な養育環境への早期支援プログラム」を反映した形で総合的に展開できるように検討を加えた。

#### (6)「不適切な養育環境への早期支援プログラム」のアウトカム評価の実施

保護者に対する調査(家庭環境と支援ニーズに関する実態把握)、医療・福祉・教育専門職による子どもへの面接・観察調査(子どもの心身の健康と課題に関する専門的な評価)を実施した。

専門職による子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動の評価、保護者に対する質問紙調査、専門調査員による家庭環境評価、面接調査、環境評価を行い、評価の妥当性を検証しつつ気なる子どもの特性別パネルコホートをを用いた不適切な養育環境への早期支援プログラムのアウトカム評価を行った。

#### (7)アウトカム評価に基づく「不適切な養育環境への早期支援プログラム」の提案

アウトカム評価を反映させ、「不適切な養育環境への早期支援プログラム」の実践活用モデルとして、実践の場で活用しやすいさまざまなモデルを提案した。

さらに、「科学的な根拠」として活用可能なコホート研究に基づく成果を、ホームページで広く公開した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

Anme T, Tanaka E, Watanabe T, Tomisaki E, Group JCS. Parent-Child Interactions and Child Social Competence: Longitudinal Evidence Using the Interaction Rating Scale

(IRS); in "Parent-Child Interactions and Relationships: Perceptions, Practices and Developmental Outcomes (1st edition)" (edited by Alvarez K), Nova Science Pub Inc (New York) 査読有, 2016, 195-205

Takahashi Y, Okada K, Hoshino T, Anme T. Developmental Trajectories of Social Skills during Early Childhood and Links to Parenting Practices in a Japanese Sample. PLoS One, 査読有, 10(8)e0135357, 2015  
<http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0135357>

Anme T, Tanaka E, Sugisawa Y, Matsumoto M, Watanabe T, Tomisaki E, Tokutake E, Miyazaki K, Edamoto S, Validating the Effects of Inclusive Childcare with the Interaction Rating Scale, Education, 査読有, 4(2), 2014, 35-40

Anme T, Tanaka E, Tokutake K, Watanabe T, Tomisaki E, Mochizuki Y, Wu B, Shinohara R, Sugisawa Y, Assessing Gender Differences in Sociability Towards Strangers Over Time Using the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA), International Journal of Applied Psychology, 査読有, 4(2), 2014, 50-56

Anme T, Tokutake K, Tanaka E, Watanabe T, Tomisaki E, Mochizuki Y, Wu B, Shinohara R, Sugisawa Y, Validity and Reliability of the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA) as an Index of Social Competence Development, Public Health Research, 査読有, 4(1), 2014, 25-30

Wu B, Tanaka E, Tokutake K, Watanabe T, Mochizuki Y, Tong L, Shinohara R, Sugisawa Y, Sawada Y, Ito S, Okumura R, Anme T, Continuity of social interaction and functional status: a nine-year population-based prospective study for the elderly, Public Health Research, 査読有, 4(3), 2014, 79-84

Anme T, Tanaka E, Assessing Gender Differences in Sociability Towards Strangers Over Time Using the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA), International Journal of

Applied Psychology, 査読有, 4(2), 2014, 50-56

Anme T, Tokutake K., Validity and Reliability of the Interaction Rating Scale Advanced (IRSA) as an Index of Social Competence Development, Public Health Research, 査読有, 4(1), 2014, 25-30

Watanabe T, Tanaka E, Tomisaki E, Mochizuki Y, Tokutake K, Wu B, Matsumoto M, Arioka S, Anme T, Development of a Scale for Assessing the Childcare Information Utilization Skills of Childcare professionals (SACIUS). International Journal of Psychology and Behavioral Sciences, 査読有, 4(1), 2014, 21-29

〔図書〕(計 2 件)

Anme T, Nova Science Publications, New Empowerment Models on Practical Strategies for Wellbeing, 2016, 110(3-16)

安梅勅江, 北王路書房, いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学, 2014, 0-135

〔その他〕

ホームページ等

保育パワーアップ研究会

<http://square.umin.ac.jp/Child/>

子育て子育てエンパワメントに向けた発達コホート研究

<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/ecd/>

Empowerment for Child Development and Child Care: Evidence from Cohort Study

<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/ecd/index-e.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安梅 勅江 (ANME, Tokie)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号: 20201907

(2) 研究協力者

田中 裕 (TANAKA, Hiroshi)

酒井 初恵 (SAKAI, Hatsue)

宮崎 勝宣 (MIYAZAKI, Katsunobu)

城戸 裕子 (KIDO, Yuko)

小林 昭雄 (KOBAYASHI, Akio)

天久 薫 (AMAHISA, Kaoru)

枝本 信一郎 (EDAMOTO, Sinichiro)

渡辺 多恵子 (WATANABE, Taeko)

田中 笑子 (TANAKA, Emiko)

富崎 悦子 (TOMISAKI, Etsuko)

澤田 優子 (SAWADA, Yuko)

童 連 (TONG, Lien)

恩田 陽子 (ONDA, Yoko)

望月 由妃子 (MOCHIZUKI, Yukiko)

呉 柏良 (WU, Bailiang)

矢内 悠里 (YAUCHI, Yuri)

吉田 麻由美 (YOSHIDA, Mayumi)

金 春燕 (KIM, Syunen)

渡辺 久実 (WATANABE, Kumi)

加藤 慶子 (KATO, Keiko)

伊東 花江 (ITO, Hanae)

鎌田 彩加 (KAMATA, Ayaka)

坂田 美樹 (SAKATA, Miki)

欧陽 玲玲 (OUYANG, Lingling)

楊 亜舒 (YANG, Yashu)

佐野 千尋 (SANO, Chihiro)

趙 赫 (ZHAO, He)

喻 惠絹 (YU, Huijuan)

孫 晶瑩 (SUN, Jingying)

姜 俊羽 (JIANG, Junyu)